何処へいく木の葉のきつぷ風の駅

森岡香代子

枯葉は一陣の風に吹かれて駅を離れてゆく。しかし、次の駅がどこなのか、終着駅がどこなのかは知らない。風の駅の駅長さんに聞いてみますか。

四苦八苦掛けて足したら除夜の鐘

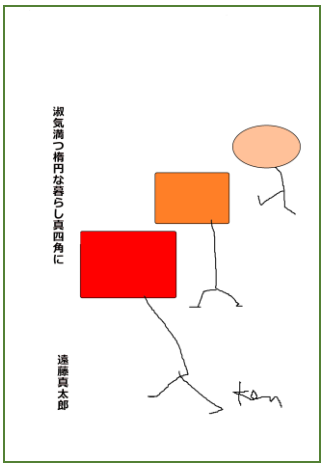
ささのはささら

本当のような嘘をつくのが文芸とするなら、この句はまさに「文芸」である。除夜の鐘は百八つ。この句で、煩悩の数とされている根拠が判明したね。

値上げに遅配それでも出します年賀状

南とんぼ

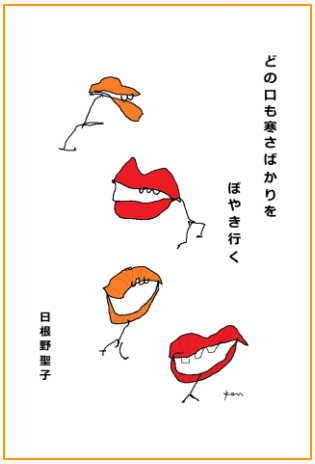
年賀状を書く人より、書かない人の方が多くなっている。「年賀状じまい」という言葉もよく見かけるが、迷いなく「出します」の宣言が嬉しいね。



淑気満つ楕円な暮らし真四角に

遠藤真太郎

淑気の緊張感を視覚化した巧妙な句である。言葉の抽象を言葉で具体化することは難しいのだ。なかなか使いこなせない高度な技の句である。



どの口も寒さばかりをぼやき行く

日根野聖子

「寒いね」「冷えますね」。交わされる挨拶を俳句的に俗な表現をするとこんな句になる。「どの口もぼやく」と川柳的なところが俗っぽくていい。

浅漬や時短時短の流行る現代（いま）

ほりもとちか

何をするにも効率が優先される現代を「浅漬け」並みだと皮肉っている。俳句もこんな風に社会時評できると後世に生き残る可能性が出てくる。